

て学生は勿論のこと、職員チームもこれに負けじと奮戦し熱戦、珍戦の絵巻の連続でやつと十二月中旬全スケデュールを終りました。

因みに優勝カップは寄贈されたメーカの名を冠して写真左より日立盃(野球)、三菱盃(庭球)、東芝盃(ピンポン)、日新盃(囲碁)と名付け御好意を永く伝えることに致しました。こゝに御寄贈を賜った各メーカに対し深甚な謝意を表する次第であります。

さて、これらの優勝盃の初の授賞チームは次ぎの通りで、期待された職員チームは庭球に堂々(?)優勝しましたが、他は残念ながら若い学生に花を持たせる結果となりました。

- 野球 四回生チーム
- 庭球 職員チーム
- ピンポン 一回生チーム
- 囲碁 大学院チーム
- 将棋 大学院チーム

なおこの度、懇話会においては本学建築工学科森田教授に依頼して写真(省略)のような優勝メダルを製作し、各優勝者に授与しました。

三、その他恐らく皆様にも色々の思出をお持ちであろう夏季学外実習は現在も必修科目として学生に課しておりますが、その報告会と今年特に好調であった学生の就職試験報告会を兼ねて懇話会秋期大会を去る十二月十日に開催し、林千博教授の欧米視察談を興味深く拜聴しました。

また近くは来る二月六日午後三時より楽友会館において今春卒業する学生の前送を祝福して予餞会を開催する予定になっておりますので、卒業生各位の多数の御参加を衷心よりお願い申し上げます。

以上最近の懇話会の活動について御報告申上げましたが、筆を擱くに當り常々格別の御援助を賜わりつゝある落友会に重ねて御厚礼申上げる次第であります。

松田長三郎先生記念会行事

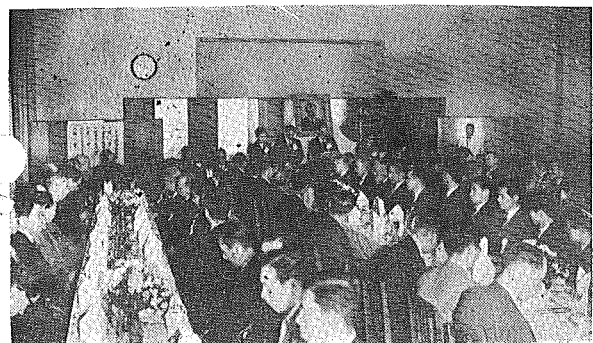
母教室教授を、停年で退官された松田長三郎先生の功勞を記念し、感謝と慶祝の意を表するため先生の友人、門下生など有志の発起になる「松田長三郎先生記念会」の祝賀行事は、旧臘十二月一日(土)京大楽友会館において盛大に開催せられ、遠近各地からの参会者二百余名、終始熱誠と和氣に溢れた盛況であつた。

【記念講演会】

午後一時林重憲教授の開会の辞に始まり

- 一、螢光灯に関する諸問題 大谷 泰之氏 (京大電気工學教室)
- 二、金属ウランの製造 久野 清氏 (電気試験所)
- 三、欧米と日本の電鉄を比較して

松田先生記念会



青木精太郎氏

以上三氏の講演の後少憩、次いで前田憲一教授の司会により再会。四、生産性より見た日米の電気事業について

加藤博見氏

五、エルー式電気炉の電力使用合理化について

真田安夫氏

両氏の講演終り、松田先生の御挨拶があつて午後四時講演会を終了した。

【記念品贈呈式】

松田先生並に教子夫人、令嗣長生氏夫妻、令嬢良子さんの御臨席を得て、清野教授の司式により午後四時半開式。

先づ実行委員長加藤教授より別項の如き式辞があつて、次いで松田先生に委員長より記念品目録を贈呈し、満堂拍手のうちに先生これを受納された。

続いて滝川幸辰京大総長、友人代表七里義雄阪大名譽教授、門下生代表大谷泰之教授の祝辞があり、更に松田先生の謝辞があつて午後五時半、目出度く贈呈式を終了した。

【記念晩餐会】

松田先生御一家を主賓に加藤委員長、滝川京大総長、児玉工學部長、鳥養、岡本、阿部、近藤金助、亀井三郎、西村秀雄の各名譽教授、大山松次郎東大名譽教授、古賀東大教授、七里阪大名譽教授、熊谷、竹山阪大教授その他、石川芳次郎氏を始め落友会々員等百四十名の出席を得て、午後六時半開会、先づ山村忠行氏の司会で加藤委員長挨拶があつて、続いて松田先生の謝辞があつて、滝川総長の発声で先生御一家のため乾

杯、宴漸く酣となる頃、司会者の指名でテールスピーチに入る。

先づ児玉工學部長、次いで東大電気教室代表古賀教授、阪大代表熊谷教授、続いて石川芳次郎氏のテールスピーチが終つたとき、東京より航空機で馳せ参つた、会場に到着された大山松次郎東大名譽教授の劇的な挨拶があり、続いて林重憲教授、松田先生の中学時代からの親友後藤五郎京都市立医大教授の話、更に松田先生の感激的な飛入りスピーチ等、尽きぬ清興に時の移るのを忘れたが、最後に司会者山村氏のテールスピーチを以て誠に和氣麗々裡に午後八時四十分目出度く記念祝賀会の幕を閉じた。

加藤委員長式辞

私は甚だ僣越でございますが、松田先生記念会を代表致しまして先生に御祝詞を申上げる機会を与えられましたことは私の最も光榮とする處でございます。松田先生は大正六年七月に京都帝國工科大学電気工學科を御卒業の後、直ちに大学院に入り放電青柳栄司先生御指導の下に真空放電の現象及びその応用に関する研究に従事されたのであります。大正十三年二月には京都帝國大學助教に御任官になり、次いで昭和六年五月には電力応用の研究のために独逸米に出張を命ぜられ昭和九年一月御帰朝、同年二月教授に御昇任になりました。青柳栄司先生の後継者として電熱照明と電力応用とを主とし電熱、真空工學、電気鉄道に関する電気工學第五講座を担当されました。又大学院の開設と共に大学院学生の指導にも当たられたのであります。その間昭和廿七年十月には工学博士の學位を授与されました。爾來本年十一月廿八日停年制により御退官になつて三十有余年の永きに亘つて終始一貫、精勵努力され専門の分野の研究と学生の指導訓育のために御尽

す下さいました次第であります。さてその間先生の薫陶を受けて社会に興立ちました多数の技術者、研究者は極めて多数でありまして斯界の第一線において活躍致している次第であります。又先生には電気工學科並に電子工學科の学生の他に経済學部、農學部、吉田分校の講師(又は授業担当)として他教室の学生の指導にも当たられました。

その他、先生は工学研究所員として關係方面の研究に多くの業績を挙げられていたが、後昭和廿五年三月工学研究所長に選任せらるゝや研究所の拡充整備について努力され、その運営についても大いに寄与され、処が大であったのであります。更に本学の補導委員や渉外委員や図書館商議委員等を歴任されたのであります。

又学外にあつては電気学会や照明

昭七同窓會 昭三二二五 於麻布三丁目

加藤 信義

松田先生御遺族に
敬具
昭和三十一年一月一日
昭七同窓會 謹啟

学会等の各種學術団体や委員会の重要な役員や委員として又財団法人技術科学館の館長として常に斯界に貢献されました。就中昭和三十年には選ばれて照明学会々長に当選されたのであります。時恰かも照明学会創立四十周年に当りますので松田先生はその会長として盛大な式典を東京本部において行い電燈照明の普及発達と会勢の拡張とを図られたのであります。照明学会が最近頃にその発展を見ましたことは全く先生の御尽力による処が大であると思ふのであります。

又、日本學術振興会常置委員として、電氣事業主任技術者資格検定委員として国家試験の重責を果されたのであります。

先生の今日までの御研究は電燈照明及び電力応用の分野において極めて広汎多岐に亘り未開拓の新分野の研究を進められまして独創的多くの成果を挙げられましたのみならず、その方面において多数の有能な研究者や技術者の養成に力を尽くされたのであります。これらの研究業績は凡そ百篇に上る多数の論文やその他となつて斯界に不滅の光を放つてゐるのであります。そこで先生の

第一に電燈照明の研究としてはタングステン白熱弧光燈、炭素弧光燈、超高圧水銀燈、螢光燈、近赤外線等の研究。

第二に放射熱電堆に関する研究。

第三に太陽放射エネルギー及び光照度に関する研究。

第四に纖維性物質に対する強電界の影響に関する研究。

第五に強電界における粉体の性状に関する研究。

第六に電氣的切断及び加工に関する研究等。

見ましても如何にその研究が広く且つ深いかが窺われまして敬服の他はありませぬ。

就中、超高圧水銀燈に関する研究は特筆すべき研究でありまして、これに關して多くの發明特許を得られ、街路の照明や球場の照明等に盛んに利用されつゝある状態でありま

す。その他多数の特許を得られておりまして応用方面において非凡の才能を發揮され發明協会より大賞を贈られ、その上最近はドイツの Gift Forschungs Institute へ Hertz medaille を贈られたのであります。

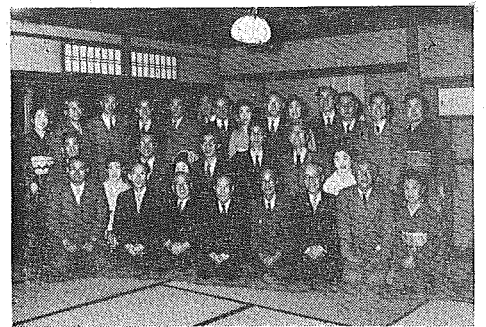
以上申し述べましたように松田先生は永年大学教授として教育界や学界はもとより電氣事業界にも貢献されましたその功績は実に偉大なものがありますが、特に人格は高潔であり、人情にも厚く、その徳化は燦として輝いてゐるのであります。

先生には今や功成り名遂げられまして本学の長老として本学名譽教授の列に加えられ、而も老いて益々御健勝であらせられることは何よりお芽出度いことでありまして廣祝に堪えない次第であります。

尚お今後一層御自愛下さいまして幾久しく後進の者を御指導、御鞭撻賜りましてよう偏えに御願ひ申上げる次第であります。

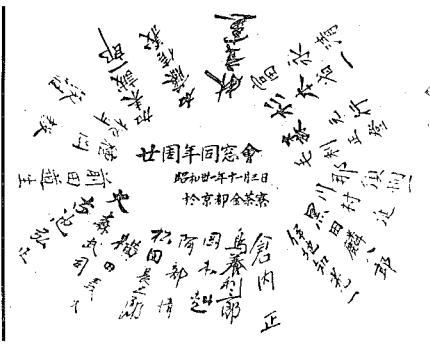
茲に本記念会は先生が三十有余年の永きに亘り本学のみならず、国家社会のために御尽力下さいました御功勞に對して祝意と感謝の意を表わすために些かの記念品を贈呈致したいと思ひます。

その他に須田国太郎画伯に先生の肖像画一面と油絵一面を揮毫して頂きまして、そのうち先生の肖像画はこれを母教室に寄贈して永く先生の高風を偲びたいと思ひます。又油絵は先生に御贈呈したいと思ひます。



昭和十一年卒業二十周年記念クラス会

去る十一月三日昭和十一年卒業二十周年記念クラス会を懐しの京都鴨川畔茶寮で開催しました。当時我々を直接御指導願つた鳥養、岡本、阿部、加藤、松田、林の諸先生方の御出席を願つて集る者十六人、遠く九州、東京からも多数馳せ参じて予想以上の盛会でした。戦時戦後のブランクで会合する機会も無く二十年振りに顔を合せた諸君も多く、又一方昔と変らぬ諸先生方とお目にかかり懐旧談に花が咲き、学生時代に戻つて互いに盃を汲み交し高談笑、実に愉快な一夕を過ぎることが出来ました。急用の者、恐妻を除き共に一泊、翌日は丁度開催中の京都文華典及び金閣寺、嵯峨、苔寺を見物して懐しの教室は如何にと車を取つて今も変らぬ赤煉瓦の教室玄関前で記念撮影して帰途につきました。次回は五年後の廿五周年を期し更に盛大に開催することを約して正午過ぎ解散しました。(伊地知光一記)



先生には幸に辱知門下一同の祝意と感謝の微意を御掬みとり下さいますりて御受納下さるならば誠に本懐の至りでございます。以上甚だ燕辞でございますが御挨拶と致します。

御禮

松田長三郎

私儀去る大正六年、母校電氣工学科を卒業以来、長年研究と教育に没頭して参りましたが、昨年十一月廿八日、満六十三才の誕生日を迎えて停年退官致し、翌廿九日京都大学名誉教授を授けられましたこと。この間大過無く勤務出来ましたことは深く各位の御鞭撻、御支援の結果と深く感激しております。それにも拘らず記念会の名において数々の記念事業をお企て頂き、十二月一日には盛大な講演会、記念式、記念晩餐会をお開き下さり家族一同が御鄭重なお招きを忝うしましたことは終生忘れ得ない身に余る光栄と感激でございます。然る処、翌々十二月三日はからずも家内が病臥致し、縦隔洞腫瘍のため遂に旧臘卅一日永眠致しました。誠に人の命の儚さを思うて只々暗然

たるのみであります。一月二日密葬、八日告別式を執り行いました。が、その間御懇篤なる御弔慰を忝うし、温かき御同情に對し遺族一同感激致しております。茲に紙上を借りまして重なる御懇情に對し厚く御礼申上ます。

昭和二十二年卒業クラス会

昨年十一月廿一日通信学会の全国大会を機会に、昭和二十二年卒業、東京在任者のクラス会第零次会が有楽町の東光ビルで開催された。

第二次会位までに顔を見せた者は木村、中島、出口、池上、増田、園山の諸君で、関西からは高木(以上、写真後列右からの順)山本両君とであつた。第零次会においては卒業十周年記念のクラス会に關して種々協議した。

会社の仕事の関係で山本君は第一次会から参加し、木村君は第零次会を終ると共に帰り、第二次会以後に

昭和二十二年卒業クラス会

